

平成21年度第2回日本海海況予報

1. 今後の見通し(2009年7月～9月)

- (1) 隠岐諸島北西と北方の暖水域は、北北東に徐々に移動する。能登半島西方の暖水域は、ほぼ停滞するが、その一部は佐渡西方に移動する。上越沖の暖水域は消滅する。佐渡北方と山形沖の暖水域は、北上する。男鹿半島沖の暖水域は、津軽半島沖の暖水域と合流し、勢力を維持する。
- (2) 島根沖と山陰・若狭沖冷水域の張り出しは、かなり弱い。佐渡沖冷水域の張り出しは、平年並み。入道埼沖の冷水域の張り出しは、やや弱い。
- (3) 対馬暖流域の表面水温は、平年並みで経過する。
- (4) 対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部及び北部ともやや高めで経過する。

2. 経過(2009年3月～2009年5月)

- (1) 3月に隠岐諸島北方と能登半島西方でみられた暖水域は、4月に合流し能登半島西岸に接岸。5月には離岸し、ほぼ停滞。
3月に佐渡島北方と北西でみられた暖水域は、北上し男鹿半島まで移動。
3月に上越沖にみられた暖水域は、4月はほぼ停滞、その後北上。
3月に男鹿半島みられた暖水域は、4月に勢力を大型化。
- (2) 島根沖の冷水域は、規模は小さく離岸。山陰・若狭沖と佐渡沖の冷水域は、規模及び接岸状況とも平年並み。入道埼沖の冷水域は、規模は小さくやや離岸(3月)。
- (3) 対馬暖流域の表面水温
3月：概ね”平年並み”～”やや高め”で、隠岐諸島北西海域では”かなり高め”～”はなはだ高め”。
4月：概ね”かなり高め”～”はなはだ高め”であるが、能登半島北方沖合では”やや低め”。
5月：概ね”平年並み”であるが、山陰から能登半島の一部の沿岸では”かなり高め”～”はなはだ高め”。
- (4) 対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部及び北部とも”やや高め”(1～3月平均)。

3. 現況(2009年6月)

- (1) 暖水域は、隠岐諸島北西方及び北方、能登半島西方、上越沖、佐渡島北方、山形沖、男鹿半島沖及び津軽半島沖に分布。
- (2) 島根沖の冷水域は、規模ははなはだ小さく大きく離岸。山陰・若狭沖の冷水域は、規模は小さく距離は平年並み。佐渡島沖の冷水域は、規模及び接岸状況とも平年並み。入道埼沖の冷水域は、規模はやや小さくてやや離岸。
- (3) 対馬暖流域の表面水温は、日本海西部は概ね”平年並み”で、日本海北部は”平年並み”～”やや低め”で、青森と北海道の西方沖合では”かなり低め”。
- (4) 対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部及び北部とも”やや高め”。

(註) 引用符(””) で囲んで表した、平年比較の水温の高低の程度は以下のとおり

”はなはだ高め”： 約20年以上に1回の出現確率である2℃程度の高さ

”かなり高め”： 約10年に1回の出現確率である1.5℃程度の高さ

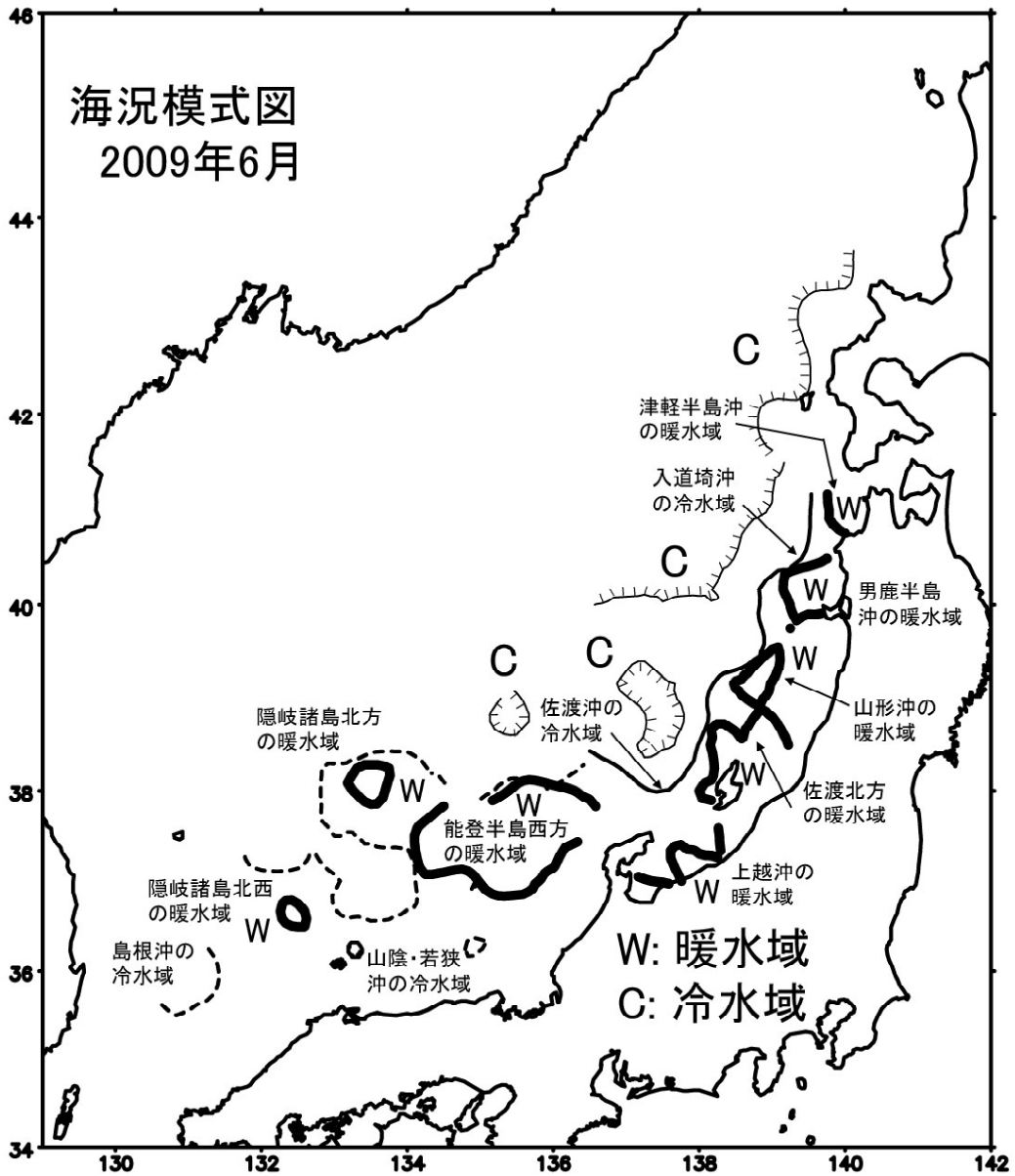
”やや高め”： 約4年に1回の出現確率である1℃程度の高さ

”平年並み”： 約2年に1回の出現確率で、平年値±0.5℃程度の水温

”やや低め”： 約4年に1回の出現確率である1℃程度の低さ

”かなり低め”： 約10年に1回の出現確率である1.5℃程度の低さ

”はなはだ低め”： 約20年以上に1回の出現確率である2℃程度の低さ



2009年6月の海況模式図

参 画 機 関

北海道立中央水産試験場	京都府立海洋センター
地方独立行政法人 青森県産業 技術センター 水産総合研究所	兵庫県立農林水産技術総合センター 但馬水産技術センター
秋田県農林水産技術センター 水産振興センター	鳥取県水産試験場
山形県水産試験場	島根県水産技術センター
新潟県水産海洋研究所	山口県水産研究センター
富山県農林水産総合技術 センター 水産研究所	社団法人 漁業情報サービスセンター
石川県水産総合センター	水産庁 増殖推進部 漁場資源課
福井県水産試験場	独立行政法人 水産総合研究センター 日本海区水産研究所